安村 秀熙　南条幸子バレエ研究所 特別アシスタント
現ロシア国立ウラルオペラバレエ団ソリストダンサー
兼 専属振付家

3 歳より南条幸子バレエ研究所にてバレエを始め、南条幸子に師事。
文化庁「平成 28 年度新進芸術家海外研修制度」研修員としてドイツ・ハンブルクバレエ学校に留学し、ジョン・ノイマイヤー作品を踊る。2018 年に同校を卒業後、ルーマニアの Teatrul De Balet Sibiu、中国・広州バレエ団を経て、2021 年にはロシアを代表する振付家スラバ・サモドゥロフに招かれてロシア国立ウラルオペラバレエ団にソリストとして入団。

現在はロシア・エカテリンブルクを拠点に、ロシア各地の劇場にて舞台出演する。クラシック作品では『ラ・シルフィード』ジェームズ役で全幕主演を務めたほか、『せむしの仔馬』〈海と真珠〉、『ラ・バヤデール』ブロンズアイドル、『白鳥の湖』道化、『ジゼル』ペザントのパ・ド・ドゥ、『ナポリ』など数々のソロパートを踊る。
また、サモドゥロフ作品を中心としたコンテンポラリー作品にも多数出演する。

主な公演経験として、国際的名声のあるガラ公演であるモスクワ・ボリショイ劇場『ブノワ賞記念ガラ 2022』と、サンクトペテルブルク『Dance Open 国際ダンスフェスティバル 2023』に出演を果たした。さらに、ロシアの演劇文化における最高栄誉賞「ゴールデンマスク賞」記念公演の一環としてウラルバレエ団とともにアレクサンドリンスキー劇場およびボリショイ劇場で踊る。

さらに、ロシアウラルバレエ団にて作品振付を兼任し、2024 年に『Oblivion Soave』、2025 年 7 月には『友よ永遠に』をウラルオペラバレエ団にて発表。その他、これまでに「イノック・アーデン」「一千一秒物語」などの創作作品を手掛けている。
2025 年秋には、ロシア国内の若手作曲家と振付家によるコラボレーションプロジェクト「ディアギレフ PS プロジェクト」に振付家として参加予定。

また、2025 年 6 月に早稲田大学・三浦哲都准教授（ダンス科学）との共著論文
“Scientific Literacy to Support Sound Decision-making when Incorporating Scientific Findings into Dance Practice（科学的知見をダンスの実践に取り入れるにあたって的確な意思決定を促すための科学リテラシー）”を執筆し、海外学術誌『Journal of Dance Education』（Taylor & Francis）にアクセプトされた。

主な受賞歴

- 2014年 平成26年度全日本バレエコンクール第3位、チャコット賞受賞。
- 2014年 ジャパングランプリ 第2位
- 2015年 第18回NBA全国バレエコンクール 第1位
- 2018年 シビウ国際舞踊コンクール Pre-Professional部門 第1位
- 2019年 シビウ国際舞踊コンクール Professional Contemporary部門 第1位
- 2022年 2021年度沖縄タイムス芸術選賞奨励賞　受賞。
- 2022年 ロシアバレエ評論家Anna Galayda選出「ロシアバレエ界で注目される25人のダンサー」
- 2023年 ロシア・スヴェルドロフスク州 劇場コンクールBravo 「振付の再現におけるスタイルの正確さ」特別ダンサー賞受賞
- 2023年 ロシア・スヴェルドロフスク州政府、芸術部門 州知事賞 受賞

ロシアバレエ評論家コメントより抜粋

「安村秀熙—エカテリンブルクにもう一人の日本人ダンサーが現れたとは気づかなかった。しかし、舞台上で彼を見逃すことは決してできない。『正確さと自由さ』という、バレエにおいては稀な特性を併せ持つ存在だ。」— Anna Galayda（2022年『ロシアバレエ界で注目される25人のダンサー』）

「『振付の再現におけるスタイルの正確さ』で特別賞を受賞した安村秀熙は、サモドゥロフのおかげでウラルバレエ団に登場した。カリスマ性を備えた“サムライ・ダンサー”であり、驚異的な芸術センスを持つ。私たちは3演目を観たが、それらすべてでソロを務めた彼から目を引き離すことは不可能であった。」— Larisa Barykin（2024年劇場コンクールBravo審査員・評論家）